

第 28 回 京都市西京まちづくり区民会議
摘 録

日 時 令和 2 年 11 月 25 日（水） 午後 2 時～午後 4 時 3 0 分

場 所 京都市西文化会館ウエスティ 1 階 創造活動室

出席者（敬称略）

- ・ 井上 学 立命館大学アート・リサーチセンター客員協力研究員
- ・ 上田 清和 西京区体育振興会連合会会計
- ・ 片岡 純治 新林学区自治連合会会長
- ・ 片山 千恵子 西京区社会福祉協議会理事
- ・ 河原 裕 嵐山東学区自治連合会会長
- ・ 小石 敦子 西京区民生児童委員会副会長
- ・ 小石 玖三主 西京区自治連合会会長
- ・ 阪田 朱音 京都信用金庫東桂支店支店長
- ・ 白須 正 龍谷大学政策学部教授
- ・ 鈴木 千鶴 区民公募
- ・ 東條 すえ子 西京少年補導委員会企画副部長
- ・ 藤本 英子 京都市立芸術大学美術学部教授
- ・ 宮崎 秀夫 西京区長
- ・ 安田 淳司 西京区洛西担当区長
- ・ 山本 義博 桂学区自治連合会会長
- ・ 吉田 由美 区民公募

1 開会

2 次期西京区基本計画の素案について

（1）第 27 回京都市西京まちづくり区民会議 意見の概要

事務局

（資料 1 説明）

<意見なし>

（2）次期西京区基本計画策定について

事務局

（資料 2 説明）

小石議長

項目その他に変更があった。意見があればきかせてもらいたい。

「地域共生社会の実現に向けた地域包括ケアシステムの推進」について、「地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制の構築」への変更は、よかったと感じる。

山本委員

よく研究されてまとまっていると感じる。

吉田委員

修正され、シンプルになり分かりやすいのではないかな。

片山委員

芸大跡地活用について、洛西ニュータウンの再生・活性化と一緒に考えるとのこと、よろしくお願いしたい。

鈴木委員

「学術・医療機関等と地域との連携の推進」への変更は、将来につながっていくような形で、分かりやすくなっていると感じる。

白須委員

よくまとまっていて評価できる。

細かい点だが、「地域での経済活動の活性化」の表現は、「地域経済活動の活性化」という言い方がよいのではないかな。

宮崎委員

現在、京都市基本計画案のパブリックコメントを実施している。資料も準備されているので、比較してみてもよいのではないかな。

小石議長

京都市基本計画案も見てもらいながら、よいものを取り入れていきたい。

（３）次期西京区基本計画（素案）

事務局

（資料３説明 第１～３章）

河原委員

今年のコロナ禍で、人と人の支えあいが一層クローズアップされているのが印象的で、よかった。

基本計画は、取組が多岐に渡っている、項目の統合等は必要だと感じる。今回の案は、非常にスマートになってきたと感じる。

片岡委員

重点取組として「次世代につなぐプロジェクト」と位置付けられているが、自治連合会で活動している者として、こういった項目を見ると、簡潔にまとめられて分かりやすいと感じる。大事な内容である。

上田委員

今までの流れから比較すると分かりやすくなった。

地域の力について、こういった社会状況なので、様々な活動が止まっている。動き出した時に地域の力に差が出るのではないか。

いずれは動き出さねばならないが、その時、地域が一丸となって動ける体制になっていることが必要である。今からでも各自治会で体制を作っていければと思う。

阪田委員

まちづくりの方向性が、今後どのように動いていくのか、想像しやすい素案になっている。

第4節の「いつまでも住み続けられる都市基盤が整うまちづくり」は、金融機関としても重要な内容と認識している。

吉田委員

「京都の持続可能な発展につながる芸大跡地の活用」とあるが、持続可能な発展の定義は京都市基本計画が元になっているのか。

宮崎委員

西京区基本計画と京都市基本計画は、横並びの関係にある。

芸大跡地の活用については、まだ具体的には決まっていないが、市と区の計画にとって重大なまちづくりの要素と考えている。

藤本副議長

P6, 7 の関係性について、P6 は西京区で考えている4つの取組が位置付けられ、P7 で紹介されている「全市的視点」とある内容は、京都市基本計画案に入っているという理解でよい。

事務局

御指摘の通りである。「全市的視点」は、西京区基本計画を作る上で持っておかねばならない視点である。京都市基本計画案に含まれる内容であるが、そのままではなく、抜き出したものである。

藤本副議長

そういった関係性について、もう少し分かりやすく説明があった方がよいのではないかと。よく読めば全市のことと理解できるが、取扱いのレベルが同じになっている。

P6 の4つのまちづくりの方向性について、それぞれの説明がどこにあるか、表現した方がよいのではないかと。

井上委員

御指摘の通り、「全市的視点」が分かりづらい。「市全体のまちづくり」等の表現があれば分かりやすいのではないか。もしくは、P6 と P7 のつながりが分かるように「京都市」という言葉を入れてはどうか。

東條委員

芸大跡地について、洛西ニュータウンに住んでいることもあり、こういった形で取り上げてもらうのはありがたい。

宮崎委員

P7 の「全市的視点」について、表現は改めて検討するとして、市の基本計画案 P2 を見てもらいたい。計画の背景の箇所に、「文化力」、「SDGs」、「レジリエンス」等の分野横断的な視点をもった内容が位置付けてある。人口減少が進みつつある状況を踏まえ、西京区においても、全市的視点を踏まえて施策を展開していくという意味合いがある。

鈴木委員

P9 に「京都の持続可能な発展につながる芸大跡地活用と洛西ニュータウンの再生・活性化」とあるが、西京区全域の人が見た時に、洛西ニュータウンだけが京都の発展につながるわけではなく、どの地域も京都の発展につながるわけだから、「京都の」という言葉には違和感がある。

上から4つ目の文言にも「京都」の言葉があるが、西の玄関口の意味合いで違和感はない。

もう少しこの辺りの「京都」という言葉の使い方は考えた方がよいのではないかな。

P8 について、「⑦子育て・教育環境の充実」と「⑧次世代の担い手の育成」の順序を入れ替えてはどうか。

小石議長

「住み続けたい」という意味合いが前面に出てきているが、それだけでなく、活力が抜けている気がする。経済的にも力をもった西京区にしていく必要がある。今後5年間は、「ゆっくり」というより、活力が必要と捉えている。

藤本副議長

私も同じように思う。特に P9 の「地域での経済活動の活性化と職住近接のまちづくり」について、「職住」の文言を入れているが、高速道路が通っていたり、これまでとは違う形で産業発展があるのではないかな。

また、今後、働き方も随分変わっていくと感じる。それを考えると、西京区は、住んで寝て働きに行って戻る場所ではなく、ここで新たな産業を生み出すチャンスが来ているのではないかな。

多様な働き方への対応や産業振興と連携した言葉を入れてはどうか。大項目から考えると、産業振興については、ここに含めるしかないのかもしれないが、本来なら、もう一つ項目を立てる等、踏み込んだ表現があってもよいのではないかな。

小石議長

もっと前向きな力を持って、底力を持って上がっていかねばならない。西京区は夢が多い場所であり、未来に向かう活力が大切である。

白須委員

私は産業政策を専門としているが、都市基盤の項目に産業施策が含まれていることについては、そういったまとめ方もあると考える。

しかし、産業のことが、商業機能くらいしか触れられていない。産業について位置付けるなら、賑わいに関する内容の後に、環境保全や持続可能な社会づくりにつながる新産業の創出等、産業が今後の課題になっていることが分かるような表現が欲しい。

P6にも重点取組として職住近接が位置付けられているが、P28とリンクしている。地域経済の活性化と職住近接、さらには新産業に関する経済の活性化が入るとよいのではないか。

また、P5の今後の課題の箇所に、新産業創出に関する課題等を入れて、P28につなげてはどうか。

小石議長

大企業が来たらよいのではなく、西京区らしい企業に来てもらう必要がある。

京都市には京都東 IC、京都南 IC、西京区には西口に IC ができている。人が来るだけでなく、産業が活性化するとかなり違ってくるのではないか。

事務局

(第4章第1節説明)

小石議長

コロナ禍で、様々な問題点が出てきているが、幅広くチェックしてもらってよかった。私自身は社協の会長だが、全世代への引きこもり対策が必要と感じている。40～60歳代の引きこもりが多くなっている。特にコロナ禍で増えているのではないか。今後、明らかになってきそうであり、危惧している。

小石委員

ひきこもりの問題について、民生委員として、そういった方への支援ができればよいが、出会うのが難しい。困っている人がおられないか、民生委員のPRを行っている。

小石議長

市の引きこもり相談窓口が、9月に開設された。相談があれば、包括支援センターや民生委員等、各機関に紹介し、お願いする形になる。9月から相談に来ている人もいる。自らの相談は少ないようだが、家族が来られたりしており、難しい状態があることも事実である。西京区では、そういう方が少なくなっている。

ごみ屋敷についても様々な状況がある。家の表に出ているごみだけでなく、家の中がそうになっているところもあり表面化していない。今後の問題である。

山本委員

「相談」、「連携」、「発信」、「推進」等と書いてあるが、どこに相談するのか、だれが連携するのか、こういった形で発信するのか、どういう形で推進するのか等、分かりづらい。もう少し具体的な内容があればよいのでは。「少年補導」、「区民しんぶん」等の具体的な名称が入っていれば分かりやすいのではないか。

小石議長

以前より分かりやすい素案になっているが、一般の人からすると分かりにくいかもしれない。我々は分からないことがあれば、区役所のまちづくり推進担当を訪れるが、そういう形で受け止めてもらえるとありがたい。以前と比べて、区役所には色々なことを受け止めてもらっている。

鈴木委員

用語解説の横に、取組の担当が表記された欄を作ることも考えられる。

宮崎委員

御指摘の主旨は理解できる。一方、10年前の区役所は、区民部、福祉部、保健部で構成されていたが、4年前に組織改正があり、福祉と保健が融合し、子どもの分野と若者分野も融合して子どもはぐくみ室ができた。

取組の担当課を表記しても組織が変わる可能性もある。

どう市民に分かりやすくしていくのか、第5章「実現に向けて」のところで整理するのか、市民しんぶん等で伝えていく等も考えられる。

位置付けてある個々の取組については、方向性として理解してもらいたい。

阪田委員

子育て世代、高齢世代、子どもやひきこもりの相談窓口などが、具体的に分かればよいのではないか。

意見が重複するが、市民の目からすれば、駆け込むところがよく分からないのが課題である。すぐ駆け込める、相談できる窓口が開かれているということが分かれば、住みやすいまちづくりにつながるのではないか。

片山委員

窓口が分かりにくいことはあるかもしれない。そのために地域の人と人がつながっていれば、話ができる。そのつながりを元に、ICTの活用など、新たなツールを使って未来につながる西京づくりを進めていけないか。直接の関係がない事柄でも、普段のつきあいがあれば、相談の電話がかかってくる。そういう意味で、普段のつきあいや地域でのつながりが大事である。そういった面もあり新しいツールの活用を挙げてもらっている。

未来に向かっての話であれば、難しい部分はあるが、地域でもICTの活用が少しずつ進んでいることも認識している。

東條委員

コロナ禍で活動が止まっている。困っている人がどこに相談に行けばよいのか、そういった人が行ける場所があればと思う。

鈴木委員

西京区には、不登校・ひきこもりを考える会の方がおり、行政まで届いていないのではないかな。かねてからそういった団体をつなげる仕組みを作っていくことが地域の活性化につながると伝えられている。こういった団体について、素案に入っているのか。

小石議長

コロナ禍で色々な問題が出てくる。気づきも大切である。

小石委員

不登校・ひきこもりを考える会の方について、地域のネットワークに参加してもらっているようであり、一緒に話し合いができるのではないかな。何等かの形でうまくつながりあってもらっている。ただ、具体的な組織名等は素案には含まれていないようである。

(休憩)

事務局

休憩前に御指摘いただいた点、不登校の方の情報をいかにつかんで支援するのかといった問いについて、項目としては P18 の 90 番「西京区子育て支援ネットワーク連絡会の活動強化」や 93 番「地域団体、NPO など多様な主体による『子ども食堂』や学習支援等の子どもの居場所づくり事業の展開、促進、支援」等の取組を通じて不登校の子どもの情報をつかんでいる。

子どもに限らない取組としては P13 の 27 番「ひきこもりの相談窓口の一元化、よりそい支援員や地域あんしん支援員の活動の推進」等の取組を位置付けている。

事務局

(第 4 章第 2 節～第 3 節説明)

小石議長

医療機関については、色々な方に企画いただき講演会などしてもらっている。以前とくらべて積極的に動いてもらっておりありがたい。

藤本副議長

前半の説明があった箇所と後半の一つ一つのボリュームの違いが気になる。これから書き込んでいくのか、最終形なのか。

最終的には節立てのトップの大きなタイトルは、ページの先頭に配置した方が見やすくなる。

事務局

第1節と第4節について、取組分野が多いことも関係している。それぞれの取組分野について、第1節はボリュームが大きいことは御指摘のとおりである。第2節と第3節については、新しい取組を含めて現状のボリュームであり、今後、取組がどんどん増えていく状況にはない。全体のバランス等は引き続き考えたい。

片岡委員

京都大学や医療機関等との連携について、理解はできるが、もう少し分かりやすく具体的に書いてもらいたい。概要が書いてあるだけで、こういった交流になるかも分かりづらい。

上田委員

医療機関との連携について、私自身が高齢の母を介護しているが、ここ何年間、西京区については地域の医者と大きな病院との連携が行われていると感じており、前進していることを実感している。

自然環境について、大原野に京都市の森林公園がある。立派な公園であり、ぜひ西京区民に、もっと利用してもらいたい。

地域スポーツ・市民スポーツについては、現在、コロナの関係で市全体のスポーツ競技がほとんどの行政区で止まっているのが現状である。西京区は9月から市のガイドラインに沿って、色々な工夫をして活動を行っている。おそらく、11行政区の中で、西京区が最も活動を続けていると思われる。

阪田委員

課題に対して難しい実態をどうするか、どのように財政負担を行っていくのか、具体的に表現するには、こういったことができるのか声を集めることも大切ではないか。

白須委員

環境と共生するまちづくりはこれからの持続可能な社会を構築していくため、重要な項目である。第2節に重点取組が一つもないので、環境共生の分野から一つ選んではどうか。西京は緑も豊かであり、自然と共生していくことは重要である。

どれも重要な項目であるが具体的取組が多い分野として、脱炭素・循環型社会の構築が挙げられ、再生可能エネルギーの普及等に取り組めるのなら、この項目を位置付けてはどうか。

小石議長

地域で環境分野で活動している人たちは、清掃活動が主な活動だったが、ふれあいまつりで市場に出ない野菜を活用した「もったいない食堂」にチャレンジされた。しかし、今年はコロナの関係もあり、飲食に関する活動ができなくなったので、新たな活動をしてもらうことになった。野菜がたくさん採れた際に、売れていない規格外の材料を子ども食堂にプレゼントしている。単にプレゼントするだけでなく、物を渡す際に子ども食堂の人と情報交換をして、子どもの安心・安全に気づくことが重要である。さらに、今回は、ひとり親家庭への宅配等のアイデアも出されている。そういった面では、伏見・山科・中京・左京等は先行している。

子どもの安心・安全に関わることに気づいていこうとしており、福祉分野と関連しているが、環境分野も絡めることができる。横の連携が取れば新しい展開につながる材料になる。

「(ふれあい事業実行委員会の) 環境美化部会」は新たな取組をしてくれると思っている。部会を作っているので、様々な活動を絡ませていくのも大事である。これらの取組は基本計画に入れ込むことができるのではないかな。

安田委員

第2節に重点取組がないとの指摘があった。脱炭素・循環型社会の構築については、区単独で取り組んでも実現が難しい事業である。西京区では、農業、市街化調整区域の問題も出ていることもあり、職住近接の考え方を第2節にも位置付けて、これらのテーマと絡めて重点取組にすることも考えられる。

鈴木委員

将来の姿について、「西山かがやく」との表現がある。北区は北山杉等を林業に結び付けている所もあり、西京区は大原野の田園風景や竹林が資源となっている。

環境部門についての指摘もあったが、「環境経営」も重要な考え方である。ボリュームの少ないところに事業を創出し、商売に結び付けてまちが元気になって税金が入る、という循環を位置付けられないかな。

例として、檜原で屋号を研究しているが、竹刀を取り扱っている店舗が3軒もある。これは、竹林を商売に結び付けていると考えられる。地域の資源を活かした生業になっている。

小石議長

西京区の自然について、大原野地域だけでなく、西京区全体を見直してみる必要もあるのではないかな。西京区は名月の場所でもある。月を見て自然を感じてもらう取組を行っているが、西京区だからこそその自然、それを活かした取組ができないかな。そういった取組が自然環境の保全につながる。

井上委員

素案のボリュームのバランスについて、偏っていることが西京区の特徴と言えるのではないかな。高齢化や人口減少が問題になりつつあり、第1節を重点的に取り組んでいくことは理解できる。

自然に関する取組については、西京区は当たり前のようにやってきた経緯がある。持続的にやっているなので、それはそのままよいのではないかな。西京区には、比較的山間地域が少なく、バランスよく自然ともふれあうことを普通にやってきた地域でもある。

小石議長

逆に何もしなければ自然がなくなってしまう恐れもある。

事務局

各節のボリュームについて、第4節は取組項目の数としては更に少なくなるが、都市基盤の整備に関連しており、項目一つ一つの規模が大きい。

(第4章第4節以降説明)

吉田委員

職住近接について、子どもをもつ母、西京区で会社を経営している者として、第1節の「子育て・教育環境の充実」の貧困家庭等への支援、次世代の担い手育成等と関連してくるのが職住近接と考える。近くで働きたいというニーズが高く、需要もある。スピード感を持ってダイナミックに考えていく必要がある。

高齢化社会は西京区だけでなく、日本全体の問題であり、早く大きく取り組んだところに人が集まる。固定概念にとらわれないよう、ダイナミックな形があってもよいのではないかと。若手経営者が集まり、活発な意見交換ができるような、夢をもてる議題が欲しい。

宮崎委員

西京区基本計画は、今後5年間の2025までの計画である。10年前に策定した計画の現時点の見直しがスタートラインとなる。位置付けている項目のバランスが悪かったりするのとは事実である。一方、5年後には京都市基本構想の改定も控えている。そのタイミングでも西京区基本計画も抜本的な見直しが必要と考えている。

前段に平成12年からの人口や世帯数の推移を掲載しているが、西京区は昭和51年に誕生し、高度経済成長に合わせて成長した。洛西ニュータウンは、平成12年以降、人口が大幅に減少している。高齢化が進み、平均世帯人員も減少している。こういった現象に危機感を持ち、この5年で何ができるのか。子育て世代に西京区で働いてもらい、高齢者も住み続けることができる取組が必要である。子育て世代に来てもらうには、住んでいる近くに仕事場が欲しいところである。

西京区は、基本的にはベッドタウンである。区域の約75%が市街化調整区域となっており、工場や事務所を誘致する土地が少ない。

問題意識を持って、5年後以降にも、どのように西京区を発展させるか考えたい。

白須委員が京都市の産業観光局に在籍しておられた時期に、桂イノベーションパークが整備されたが、新たな産業をいかに創造するか、委員からの意見を踏まえ、次につなげていきたい。

片山委員

重点取組のマークがそれぞれの項目についているが、具体的にどのような取組が行われていくことになるかが分かりづらい。

区民に、重点取組として、「こういった取組を進める」と、パブコメ等で、意見を聞く進め方もあるのではないかと。

現在進行形の取組もあるので、分かりやすくする等、検討してもらう余地がある。

重点取組の中に地域での取組の活性化等を盛り込んでどうか。

山本委員

全体的に、行政側の文面となっていると感じる。我々は会議に出席し、一定の理解ができるかもしれないが、一般の人が見て、分かりやすい文面が必要である。

例えば第1節子育て・教育環境の充実の「冊子の作成配布」とあるが、どんなものを配るのか表示すべきではないかと。

「支援」についても具体的に何をするのか分からない。見る側の文面として策定してもらえれば分かりやすくなるのでは。

様々な人の意見をもらってできた計画であり、区民の手にも渡る。もっと分かりやすくする必要がある。別紙で具体的項目をつける等、理解しやすい冊子になるとありがたい。

小石議長

公共交通体系の充実や新たな交通ネットワークの検討も課題である。行政主体の取組として表記されているが、区民のニーズに合ったものが必要である。区民のニーズが反映できる方策を考える必要がある。

小石議長

公園の活性化について、西京区は人口一人当たりの公園面積が大きいとのグラフもある。洛西ニュータウンは大きな公園があるが、本所は公園が小さく、活用もうまくできていない面がある。その辺りには注目して、公園の活性化においては大いに考えていく必要がある。

道路についても様々な問題を抱えているのが西京区であり、よい形で少しでもプラスになるものができればよいが、コロナで公共事業の予算が減る中で、今後5年間はかなり厳しいかもしれない。

井上委員

第4節の公共交通に関連して、コロナで公共交通の利用者数が減少している。概ね3割くらい減少しており、赤字になっている。しかし、従来の利用者数に戻っても赤字という事実がある。コロナ前の4月頃の各系統の状況では、西京区内の系統は赤字が多い。また、西京区内はバスの本数も多い。バスを利用しないにもかかわらず充実させていくことには無理がある。そのような状況が続くなら撤退する、というのが事業者の本音である。

利用実態に合ったバス路線の在り方が必要である。既に夜遅い便は無くなっているが、利用実態からみると、まだ多い。そういった状況があることを理解しておく必要がある。基本計画にもそういった条件を書かねばならないかもしれない。

行政が何かしてくれるだけでなく、行政がこうするから区民も協力する、というのが基本計画である。区民が受け身にならないようにするためのものが、パブリックコメントである。

山本委員

前回でも質問したが、芸大の移転が決まって何年になるのか。

藤本副議長

8年くらいになる。

山本委員

学区では様々な話をしているが、希望のもてる西京区、雇用促進、遊ぶ場所がある西京区、楽しみがある西京区等、行政としての発言もあるが、未来の西京区の希望を実現していく必要がある。経済活動や未来に楽しみがもてる等、芸大移転について何か決まればよいが、何も決まっていないと考えようがない。方向性だけでも見つければよいが、店なのか工場なのか、それも分からない。いつごろ方向性が決まるのか。

宮崎委員

具体的には、いつ、何ができるか決まっていない。民間事業者の誘致等、引き続き実施したい。

山本委員

幾つかの事業者は関心を示しているのか。

宮崎委員

具体的には見えていない。

中高層の住宅地域で商業施設がすぐに来ることができる場所ではない。土地の利用方法が決まっている場所である。

そういったことも含めて職住近接、住み続けるまちであるためにどういった施設をもってくるべきなのか。必要に応じて用途地域を変えていかねばならず、難しい問題である。早く区民に伝えたいとは思っている。

上田委員

活用方法の決定はどの部署が行うのか。

安田委員

具体的には、資産活用のセクションが担当している。芸大跡地は約7万㎡あり、京都市や西京区にとって非常に重要な場所である。

上田委員

都市計画について、用途地域を変更するのか。

宮崎委員

地区計画等の手法を用いることも考えられる。桂イノベーションパークは市街化調整区域だが、地区計画を活用した経緯がある。何を整備するのかで用途地域の変更も必要になってくる。現状のまま大学が整備されるなら問題はないが、今後整備する施設によっては用途地域の変更や地区計画の策定が必要である。

小石議長

難しい状態にあるが、芸大は令和5年度の移転が決まっている。

上田委員

現実的はないが、国道9号の再整備等も含めた検討もあり得るのではないかと。

小石議長

今後、芸大跡地周辺が変わっていくことは事実である。

実態として、観光バスが西側の沓掛ICや、大原野ICから出入りしている。嵐山を訪問する人が、縦貫道路のICを使っている。こういったことで人の流れが変わっている。この流れをうまくつか

まないと通過されるだけのまちになる。何等かのアクションが必要である。

鈴木委員

芸大移転の件について、市・区・市民がどこまで話し合って決めていけるのかが区民の関心事である。色々と話をする機会に区民を呼んでもらうのはよいが、「ここは決められる」「決められない」ということを予め明らかにして欲しい。

また、洛西口駅高架下の取組が基本計画に入っていないようだが、位置付けることはできないのか。

事務局

高架下の取組について、第1節の「協働によるまちづくりの推進」において、「京都市交流促進・まちづくりプラザ」の活用促進として位置付けている。

また、P5の「暮らしやすい都市基盤」の現状・課題において、洛西口から桂駅間の高架下のまちづくりの展開について盛り込んでいる。

鈴木委員

区民の関心も高く、目立つように書いてもらいたい。

小石議長

高架下が区役所とは違った形で利用できるのが大きいのではないか。

一方、交通面では、高架下はバス停があるが一日3本しかとまらないような状況となっている。子ども連れの利用者が歩けるかが心配である。よいものを作っても利用者数が少ないと、ものがでただけになる。

鈴木委員

高架下はウォーキングやランニングのメッカになりそうな状況である。

小石議長

年配の人は歩くのがしんどいのではないか。バスの本数が少なく、そうならないようにすべき。総合庁舎整備にも同じことが言える。ただ、以前と比べると、区役所前にバス停ができたのは前進である。

次の土曜日に庁舎整備に関するワークショップを行うとのことであり、できるだけ区民の意見をまとめていくことが重要である。

鈴木委員の指摘も理解できるが、人が集まり、意見を言ってもらうことから始まることもある。

事務局

(資料2 西京区の将来姿について 説明)

投票用紙が席上にあり、素案内容を踏まえ、最もよいと思うキャッチフレーズ案について、無記名で選んでもらいたい。

山本委員

10 候補あるが、区民会議の委員に募ったものであれば、それぞれが自身の案に投票するのではないかな。もっとたくさんの人の意見を聞く必要があるのではないかな。事務局にも投票してもらってはどうか。

事務局

委員から募った案もあるが、現行計画のままでよいという案、委員の意見から頻出キーワードを取り出して行政側で作成した案もあり、行政職員の意見も入っていると言える。そういう意味では、改めて全ての案を見たうえで、自身の案以外に投票いただいても構わない。

山本委員

傍聴者も含め、この場にいる人全員が投票すればどうか。

鈴木委員

できるだけたくさんの人に投票してもらった方がよいのでは。また、一つだけでなく、いくつか投票できるようにしてはどうか。

井上委員

傍聴者には発言の権利は認められていないはずであり、傍聴者の投票については反対する。
事務局にも意見を聴くことには反対しない。

小石議長

事務局からも投票してもらうことでよいかな。賛成の方は挙手をお願いします。

委員全員

(挙手)

小石議長

事務局を含めた投票にしたい。

事務局

投票数はいくつにするか。

小石議長

複数だと煩雑になるため、一つでよいのでは。

事務局

(投票数整理)

「西山の自然と文化かがやき 未来をひらく西京区」が最も多いので、この案を西京区基本計画のキャッチフレーズとさせていただく。

3 その他

(1) 西京区総合庁舎整備 設計ワークショップについて

事務局

(資料「西京区総合庁舎整備第1回設計ワークショップ資料より抜粋」説明)

<質問なし>

(2) 次期京都市基本計画案に係るパブリックコメントの実施について

事務局

(資料「意見募集冊子 京都市基本計画(案)」説明)

<質問なし>

事務局

(追加資料「地域力サポート講座」説明)

<質問なし>

4 閉会

上田室長

貴重な意見をたくさん出していただき、御礼申し上げます。基本計画案について、意見を参考に適宜見直しを行ってまいりたい。

以上で第28回西京まちづくり区民会議を閉会する。